**第４１回観察会　2006年８月26日(土) 10:00～12:00　晴れ**

**テーマ『植物園と吉田山』**

**☆観察会報告**

今回は、生態植物園として管理されてきた京大植物園の多様な植生景観を念頭に、今出川通りをはさんで京大植物園のすぐ南にある吉田山（京都市吉田山公園）の植生を観察し、地域の在来植生、人間生活の変遷とこれからについて思いをめぐらせました。

観察会は、まず京大植物園の入り口前から始まりました。植物園には、琵琶湖疏水を引き込んだ池があります。この水系の存在が、園内の環境と生息する生き物に多様性を生んでいると言えます。土屋さんが学生だった頃は、植物園は駆け出しの植物学徒にとって、身近にさまざまな植物を毎日見続けることができる貴重な場所だったそうです。多くの研究者が、ここで発芽、開花、展葉、結実、繁殖などといった植物の「生活」を観察し、それを通じて植物に対する「カン」を磨き、それから日本各地や海外のフィールドでの研究に取り組んでいったのです。

さて、吉田山では、尾根筋のアカマツ（マツ科）や山腹のコナラ（ブナ科）の衰退とともに、アラカシ（ブナ科）、スダジイ（ブナ科）、アカシデ（ブナ科）が復活してきています。アラカシは、ネパールや東南アジアの水田地帯でも広く見られる照葉樹林帯の代表的な樹木です。アラカシやスダジイ植生の回復は、吉田山に限らず、京都盆地周辺至るところで発生していますが、これは、この地域に人間が住み始めて以来おそらく初めての歴史的なできごとです。土屋さんは、1968年に京大農学部に入学されましたが、当時の吉田山はもっと明るかった、と言います。当時は、大きなギャップ（林冠の開口部）があちこちにあり、山頂からは見晴らしがききました。アカマツも今よりも本数が多く、また元気だったそうです。

観察会当日は真夏の炎天下にも関わらず40人近い参加があり、これらの方々が2時間以上もの間、熱心に話を聞いてくださいました。土屋先生からのお話を受けて、参加者の間で、吉田山の今昔や、里山管理に関する議論が行われました。その中で、参加者の中から、吉田山の近くに長年住んでおられる服部泰夫さん（同志社大学人文科学研究所嘱託研究員）が、約50年前に吉田山で子供どうしで写生大会をしたり、"好い場（すいば）"として遊んだ思い出を語ってくださいました。服部さんから『植物園と吉田山』に参加して、と題する感想文をいただきましたので、以下にご紹介して報告を終わりたいと思います。

8月の観察会でとりあげられた植物たち：  
【木本】チャンチン（センダン科）、チャンチンモドキ（ウルシ科）、ユリノキ（モクレン科）、シナユリノキ（モクレン科）、ヒマラヤスギ（マツ科）、サカキ（ツバキ科）、アオキ（ミズキ科）、カナメモチ（バラ科）、アラカシ（ブナ科）、コナラ（ブナ科）、スダジイ（ブナ科）、アカシデ（ブナ科）、ナナミノキ、アカマツ（マツ科）、クサギ（クマツヅラ科）、タマミズキ．【草本】ネザサ（イネ科）、ベニシダ（オシダ科）．

ガイド：土屋和三さん（龍谷大学文学部・里山ORC）

報告人：大石高典さん（京大理学研究科動物学教室）

**「植物園と吉田山」に参加して**

8月25日、妻と「京大植物園を考える会」観察会に参加した。参加者約50名。講師は竜谷大・土屋教授。吉田山は「京都市の地名」(1979年・平凡社)p.141では標高102.6米の丘となり、「京都大事典」(1984年・淡交社)p.961では標高102米とある。また、「史跡探訪　東山三十六峰」(1978年・京都新聞社)p.71では、標高120米たらずとある。ついで「国土地理院三角点情報」では標高105.11米とあり、山寵広場三等三角点では標高105.12米と記されている。インターネットの「京都府カテゴリー」では左京区吉田山は南北800米、東西300米の細長い孤立丘である。周囲より約50-60米程度突出しており、丘は南方へ傾斜し、最高点は北端部の125米で、今出川通に面して急崖をなして終わっていると表示されている。

私は51年間吉田山のふもとの浄土寺馬場町に住んでいる。子供のころは「秘密のどんぐりの宝庫」を北東部の崖の上に持っていた。今の山頂広場の北側である。旧制三高の「紅萌ゆる碑」が建てられた48年前は岡崎中学生であった。其のころは仲間とよく写生会に行ったものである。京大工学部の建物が続々と建設された50年前は時計台を始めとする京大の全景が一望のもとであった。（[写真](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu41shiryo01.pdf)：「史跡探訪　東山三十六峰」 p.76）今は何も見えない。

土屋教授も言っておられたが、吉田山を真に市民の憩いの里山にするためには樹木の刈り込みと柴の活用が必要であろう。今の状況では、市民の一人歩きも少し警戒される雰囲気である。私はこの観察会に36回の「北部の春」から参加している。学問の府、京大と市民の貴重な接点である機会をこれからも続けて行かれることを切望します。』

（近所のかた　服部泰夫）

**☆参加者の感想**

* 県外から始発で参加させて頂きました。興味深くおもしろかったです。又機会があれば参加したく思います。 （学外のかた　内田美保）
* ４月に姫路から引越して来ました。前々から吉田山に登りたいと思っていましたので、観察会に参加させて頂いて先生の丁寧な説明により身近に吉田山を感じました。楽しかったです。　　　　　　　（近所のかた　榑谷菊美）
* 久しぶりに吉田山勉強しました。時々吉田山散さくに来ていますが今日はいろいろな大樹の名前、由来を知っていい勉強になりました。近くにいますので秋には実を見に来たいと思います。もっともっと自然を大切のする事を再度確認した次第です。　　　　　　　　　（近所のかた　服部泰夫）
* 吉田山の植物の話がとても参考になりました。　　　　　　　　　（学外のかた）
* 小さい頃によく遊んだ吉田山に２０年以上ぶりにのぼりました。うっそうとしていて山んばがすんでいる山だと思っていたのをおもいだします。その頃はその山（森）で探検をするのがたのしかったけれど、里山として長く人と共存するには手を加えて整備する必要があるのだなあとかんじました。いろんな樹木の話がきけて有意義でした。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所にお住まいの京大職員のかた）
* 里山を住民、大学、一緒になって活用し美しくしていくという先生のお考えがおもしろいこころみになりそうだなと思いました。しいたけ栽培とか・・・。両親が昔は山がもっと美しかったと話していた事。私の子供の頃は、まだ山であそんでいたなあと思いだしました。（すでにうっそうとしていましたが・・・）また吉田山に椎の実を拾いに来てみます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外の方　森井律子）
* 吉田山における観察は里山の管理問題まで話を聴くことが出来て非常に参考になった。自分が田舎で大きくなった際、子供の頃家の手伝いで山の木「くぬぎ」の木を伐採するのを手伝いしたことが思い出された。その時は燃料に利用したこのような理論を知らずに手伝って大きくなった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所にお住まいのかた）
* 近くに住んでいながらこんな吉田山の立派な森があるのが勉強できました。有難うございました。　　　　　　　　　　　　　　　　（記入無し）
* いつもわかりやすい解説に感謝しています。毎月１回この日が楽しみです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（記入無し）
* 普段見馴れている樹木でも奥深い内容があるものだと感心させられました。ご説明も会話調で大変親しく参加させていただきました。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　森澄夫）
* しいの木がこんなにたくさん在るとは。秋にこさせて頂きます。吉田山の樹木にこれからは思いをはせます。有難うございました。　　（近所のかた）
* 以前から参加したいと思っていたのですが、やっと実現しました。（小ナラ、しいの木、くさぎ、さかき）いろいろ木の名前を覚えただけでもよかった。自然を大切にしたいです。　　　　　　　　　（近所のかた　湯浅一子）
* 身近な吉田山を子供と登った頃から数十年、今日の案内で貴重な山であることをつくづく感じました。　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　臼井伊久子）
* 初めて参加しましたが、色々なお話が聞けて面白かったです。吉田山にも行ってみたかったのですが、植物園の方も行ってみたかったので、次はぜひそちらを見学したいです。ですが土・日･祝にしか来れないので平日以外の日程を増やして頂きたいです。　　　　　（学外のかた）
* つちや先生のお話はわかりやすく、とてもよかった。あっというまの２時間でした。ありがとうございます。木は大きくなるほどよく、自然は手を入れない方がいいと思っていましたが、里山のお話を聞いて、人が入るのがよいことがわかりました。　　　　　　　　　（近所のかた）
* ６年京都ぐらしで、初めて吉田山に入らせてもらいました。人のくらしのため赤マツがふえたのが、人がふりかえらなくなりシイ（スダジイ？）がふえてきたとのことがわかりました。コナラのこんな大木も初めて。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 吉田山の過去の姿について、また植生について、貴重なお話をうかがうことができて良かった。眺望の確保と植生の維持の両立が難しいことを知ることができた。　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所にお住まいの京大職員のかた）
* 京都大学・吉田山が中国大陸の木々と関わっていることを知り、また格別の思いでした。とても丁寧に教えて頂きありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　服部順子）
* 今日は吉田山に登るのは５０年ぶりでした。楽しかったです。木の事が一段と勉強できました。有難うございました。　　　　　　　（近所のかた　岡村伸）
* いつも通り過ぎている山の木々のことをいろいろ学べてよかったです。身近な山を大切にしたいと思う気持ちを始めて持ちました。（近所のかた）
* 植物に関しては今まで無関心でしたが、今日の話を聞かして頂き、歴史とともに植物の生きざまは奥深いものだなあと思いました。これからは日々の生活の中で、植物に目を向けてみようと思いました。（学外のかた）